

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。やっと春の陽気が感じられる今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は大阪府立体育会館で行われた大相撲春場所、千秋楽の3月24日、新入幕として110年ぶりの優勝を果たした、『尊富士（たけるふじ）』

【伊勢ヶ浜部屋所属】に注目しました。

尊富士はこの春場所、スピードあふれる一気の攻めを生かした相撲で13勝2敗の成績を収め、大正3年の元関脇・両國以来の優勝でした。14日目の取り組みで右足首を痛め、救急搬送され千秋楽は休場を考えましたが、兄弟子の横綱・照ノ富士

から『お前ならやれる。記録ではなく記憶に残りたいんだろう。このチャンスはもう戻ってこない』と言われて出場する事を決めたそうです。尊富士は『スイッチが入って第二の自分がいるみたいに急に歩けるようになった。自分で自分が怖かった』と笑顔で語りました。千秋楽の一番については『気持ちで負けたくなかった。自分の手で優勝を掴み取りたかった』と振り返りました。

兄弟子の照ノ富士の言葉に後押しされ、最後まで諦めなかった尊富士の相撲を目の当たりにした時、私の大好きな漫画の一つ【スラムダンク】に登場する名将・安西監督のセリフ『諦めたらそこで試合終了ですよ』の言葉が、脳裏をよぎりました。最後まで絶対に諦めない心を私自身も常に持ち、日々精進していく所存でございます。

暖かい毎日が続き、時折、春一番が吹く日々が続きますが、皆様くれぐれもご自愛ください。

サンライズの物語

本当の自分を認め—— 自分自身について考える物語



その方は、高校1年で学業を辞め社会人として勤めた方でした。その方の口癖は「私は学生であることを自分で決めて辞めたことだったが、今思うと他の人よりも知識が少なくいつもコンプレックスがある」と言っていたのです。

果たしてそうでしょうか？コンプレックスは自分の価値観が決めることだと思うのです。

両親がいない方や容姿にこだわることは日常的にあることですが、そのことをハンデだと思うことは自身の心が決めることだと思います。

社会や生活という戦いの中で生きてきたことが素晴らしいことではないかと感じます。

誰もが自分の劣っているところを嫌になり何かアクシデントがある度に自分を責めたりしていますが、本当の自分をもっと認めることが必要ではないでしょうか。

以前聞いたことがある「自灯明」という言葉が心に残っています。ひとりひとりの存在は唯一無二の存在であり自分自身を頼りに生きること。自分に関わる全ての人たちに感謝することを忘れていけないと思います。



スカイツリー
中川公園に外出レク



天気も良く皆さんでお散歩してきました。



NEWS 今月のニュース

電動キックボード「LUUP」が訪問介護の“足”に、移動効率の向上&コスト削減の一助に

今回、京都で訪問介護事業を展開する2社と連携することで、LUUPを通常より安価で利用できるプランを提供し、訪問時の移動手段として活用できるようになる。加えて、介護支援先付近に駐輪場や駐車場がない、移動時間の長さから介護サービスを提供できる時間が圧迫されるなどの課題も解消できるという。

「訪問介護まごのて一条」の北川美江氏は導入について、「移動手段としての有用性」が一番大きかったと語る。これまで訪問介護者にとって、バイクや車などの移動手段では免許や渋滞、駐車代金の問題があり、自転車では業務の特性上荷物が多く、身体的に疲労が溜まりやすいという問題があったという。

また、「移動支援」という、支援の始点（主に家）と終点（主に学校

や病院）が異なる場合もあり、時間のロスが大ききから依頼を受けられないことも。これがLUUPがあることで効率よく回ることができ、「必要な人に必要な支援が届けられる一助になる」と北川氏。

そして、「よりどころ訪問介護事業所」の岡本圭太氏も、「LUUPの導入が、介護業界、特に訪問介護の人手不足にも一役を担うのでは」と、期待を寄せる。

「LUUPがきっかけとなり、『私の家の近くにあるから訪問介護に挑戦してみよう』、『介護の資格を持っているが生かせてなかった、もう一度訪問介護の現場に出てみよう』と考える方々が増え、訪問介護業界の抱えている課題の解決の糸口になるのではと期待しています」

創業当初から、数十年後の日本の課題解決に繋がるインフラをつくりたいという想いを掲げており、LUUPを利用し介護士やその資格を

持つ人へのサポートを行うCtoC事業を構想していたという株式会社Luupの代表・岡井大輝氏。

今回の取り組みに関して、「介護というこれからの日本にとって必要不可欠なサービスを提供している事業者様と連携できることについて、とても嬉しく思っています。可能性を見出しただけだったことは感慨深く、また身が引き締まる思いです」と語る。

京都市内のポート数・車両数を増やす必要性を感じつつも、「今後も、街じゅうの移動がより便利になり、訪問介護を含めた方々の事業がより普及できるよう、事業を推進してまいります」とさらなる展望を語った。



<オリコン 24/3/26 (火)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>